

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2020.5.18-24

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

20:1 あなたが敵と戦うために出て行くとき、馬や戦車や、あなたよりも多い軍勢を見ても、彼らを恐れてはならない。あなたをエジプトの地から導き上られたあなたの神、主が、あなたとともにおられる。

20:2 あなたがたが戦いに臨む場合は、祭司は進み出て民に告げ、

20:3 彼らに言いなさい。「聞け。イスラエルよ。あなたがたは、きょう、敵と戦おうとしている。弱気になってはならない。恐れてはならない。うろたえてはならない。彼らのことでおじけてはならない。

20:4 共に行って、あなたがたのために、あなたがたの敵と戦い、勝利を得させてくださるのは、あなたがたの神、主である。」

20:5 つかさたちは、民に告げて言いなさい。「新しい家を建てて、まだそれを奉獻しなかった者はいないか。その者は家へ帰らなければならぬ。彼が戦死して、ほかの者がそれを奉獻するといけなから。

20:6 ぶどう畑を作って、そこからまだ収穫していない者はいないか。その者は家へ帰らなければならぬ。彼が戦死して、ほかの者が収穫するといけなから。

20:7 女と婚約して、まだその女と結婚していない者はいないか。その者は家へ帰らなければならぬ。彼が戦死して、ほかの者が彼女と結婚するといけなから。」

20:8 つかさたちは、さらに民に告げて言わなければならぬ。「恐れて弱気になっている者はいないか。その者は家に帰れ。戦友たちの心が、彼の心のようにくじけるといけなから。」

20:9 つかさたちが民に告げ終わったら、將軍たちが民の指揮をとりなさい。

戦いのための規定です。この世にあって、私たちも勝敗を決しなくてはならないことがありますから、ここから学ぶことができます。ただし、ここにある旧約の戦いは偶像・邪教との戦いでもありますから、現代の競争と全く一緒にすることはできません。その本質を見極めて学ぶ必要があります。

「あなたよりも多い軍勢を見ても、彼らを恐れてはならない。」とあります。主のための戦いであるなら主が戦ってくださるから、心配はないのです。ただし、そのような信仰を持つことは簡単ではないかもしれません。その確信はどこから来るのでしょうか。それは礼拝からです。主との仲立ちとなってくれる祭司のことばが、確信となるのです。すなわち、聖書のことばです。

また、さまざまな事情で戦いに専念できない人への配慮が書かれています。戦いのときには士気が劣る者がいると、全体に影響するからです。私たちも自分自身がまだ恐れを持っていないか、弱気になっていないか考えてみる必要があります。であるなら、まだ主のときではないのかもかもしれません。よく祈りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



20:10 町を攻略しようと、あなたがその町に近づいたときには、まず降伏を勧めなさい。

20:11 降伏に同意して門を開くなら、その中にいる民は、みな、あなたのために、苦役に服して働かなければならない。

20:12 もし、あなたに降伏せず、戦おうとするなら、これを包囲しなさい。

20:13 あなたの神、主が、それをあなたの手で渡されたなら、その町の男をみな、剣の刃で打ちなさい。

20:14 しかし女、子ども、家畜、また町の中にあるすべてのもの、そのすべての略奪物を、戦利品として取ってよい。あなたの神、主があなたに与えられた敵からの略奪物を、あなたは利用することができる。

20:15 非常に遠く離れていて、次に示す国々の町でない町々に対しては、すべてこのようにしなければならぬ。

20:16 しかし、あなたの神、主が相続地として与えようとしておられる次の国々の民の町では、息のある者をひとりも生かしておいてはならない。

20:17 すなわち、ヘテ人、エモリ人、カナン人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人は、あなたの神、主が命じられたとおり、必ず聖絶しなければならぬ。

20:18 それは、彼らが、その神々に行なっていたすべての忌みきらうべきことをするようにあなたがたに教え、あなたがたが、あなたがたの神、主に対して罪を犯すことのないためである。

20:19 長い間、町を包囲して、これを攻め取ろうとするとき、斧をふるって、その木

を切り倒してはならない。その木から取って食べるのはよいが、切り倒してはならない。まさか野の木が包囲から逃げ出す人間でもあるまい。

20:20 ただ、実を結ばないとわかっている木だけは、切り倒してもよい。それを切り倒して、あなたと戦っている町が陥落するまでその町に対して、それでとりでを築いてもよい。

戦いをするときに、「まず降伏を勧めなさい。」とあります。極力平和裏にことを進めるのが神様の道です。しかし、戦いを挑んでくるなら、主は勇敢に戦うことを命じておられます。主のための戦いは徹底的な勝利が求められます。また敵との戦いになって、次に敗れることがないためです。

なぜ「生かしておいてはならない。」のかというと、それは彼らが、子供を火に焼くなど「忌みきらうべきことをする」からです。しかもそれをイスラエルがまねる可能性があるからです。

神の栄光と正しい信仰のためであるなら、徹底的な勝利を求めましょう。もちろん私たちにとっては、血肉の戦いではありません。人を苦しめるための勝利ではなく、サタンに対する霊的な戦いであり、愛が実現する勝利です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



21:1 あなたの神、主があなたに与えて所有させようとしておられる地で、刺し殺されて野に倒れている人が見つかり、だれが殺したのかわからないときは、
21:2 あなたの長老たちとさばきつかさたちは出て行って、刺し殺された者の回りの町々への距離を測りなさい。
21:3 そして、刺し殺された者に最も近い町がわかれば、その町の長老たちは、まだ使役されず、まだくびきを負って引いたことのない群れのうちの雌の子牛を取り、
21:4 その町の長老たちは、その雌の子牛を、まだ耕されたことも種を蒔かれたこともない、いつも水の流れている谷へ連れて下り、その谷で雌の子牛の首を折りなさい。
21:5 そこでレビ族の祭司たちが進み出なさい。彼らは、あなたの神、主が、ご自身に仕えさせ、また主の御名によって祝福を宣言するために選ばれた者であり、どんな争いも、どんな暴行事件も、彼らの判決によるからである。
21:6 刺し殺された者に最も近い、その町の長老たちはみな、谷で首を折られた雌の子牛の上で手を洗い、
21:7 証言して言いなさい。「私たちの手は、この血を流さず、私たちの目はそれを見なかった。
21:8 主よ。あなたが贖い出された御民イスラエルをお赦しください。罪のない者の血を流す罪を、御民イスラエルのうちに負わせないでください。」彼らは血の罪を赦される。
21:9 あなたは、罪のない者の血を流す罪をあなたがたのうちから除去去らなければならぬ。主が正しいと見られることをあなたは行

なわなければならないからである。

21:10 あなたが敵との戦いに出て、あなたの神、主が、その敵をあなたの手へ渡し、あなたがそれを捕虜として捕えて行くとき、
21:11 その捕虜の中に、姿の美しい女性を見、その女を恋い慕い、妻にめとろうとするなら、
21:12 その女をあなたの家に連れて行きなさい。女は髪をそり、爪を切り、
21:13 捕虜の着物を脱ぎ、あなたの家において、自分の父と母のため、一か月の間、泣き悲しまなければならない。その後、あなたは彼女のところにはいり、彼女の夫とすることができ。彼女はあなたの妻となる。
21:14 もしあなたが彼女を好まなくなったなら、彼女を自由の身にしなさい。決して金で売ってはならない。あなたは、すでに彼女を意のままにしたのであるから、彼女を奴隷として扱ってはならない。

約束の地であっても、事件は起こります。神の民であっても、殺人というような凶悪事件が起こりうるという危機管理意識は必要です。教会にも、またクリスチャンの人生にも起こりうることです。しかも、この規定にあるのは、犯人が分からない場合です。現実世界にも、真実がどうであったか分からないことがあります。よく起こるのは”言った” ”言わない” という争いかもしれません。そのような場合は神様に任せるといふ信仰が必要な場合があります。自分の正しさを主張する前に、事実を明らかにしようと挑む前に、主にゆだねましょう。人の正義よりも主の御心を優先できるかどうかは大切です。ここで扱っている事例も、事実が分からない場合です。そのようなときは、民の信仰が大切で、主にゆだねる信仰の表明が大切なのです。

捕虜の女性をめぐった場合の規定についても書かれています。その場合、捕虜であってもその悲しみに寄り添い、人権を大切にするように命じられています。弱い立場の人を大切にしなければなりません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



21日 木曜

申命記

21:15 ある人がふたりの妻を持ち、ひとり
は愛され、ひとりはきらわれており、愛され
ている者も、きらわれている者も、その人に
男の子を産み、長子はきらわれている妻の子
である場合、

21:16 その人が自分の息子たちに財産を譲る
日に、長子である、そのきらわれている者の
子をさしおいて、愛されている者の子を長子
として扱うことはできない。

21:17 きらわれている妻の子を長子として認
め、自分の全財産の中から、二倍の分け前を
彼に与えなければならない。彼は、その人の
力の初めであるから、長子の権利は、彼のも
のである。

21:18 かたくなで、逆らう子がおり、父の
言うことも、母の言うことも聞かず、父母に
懲らしめられても、父母に従わないときは、
21:19 その父と母は、彼を捕え、町の門にい
る町の長老たちのところへその子を連れて行
き、

21:20 町の長老たちに、「私たちのこの息子
は、かたくなで、逆らいます。私たちの言う
ことを聞きません。放蕩して、大酒飲みで
す。」と言いなさい。

21:21 町の人はみな、彼を石で打ちなさい。
彼は死ななければならない。あなたがたのう
ちから悪を除き去りなさい。イスラエルがみ
な、聞いて恐れるために。

21:22 もし、人が死刑に当たる罪を犯して
殺され、あなたがこれを木につるすときは、
21:23 その死体を次の日まで木に残しておい
てはならない。その日のうちに必ず埋葬しな
ければならない。木につるされた者は、神に



のろわれた者だからである。あなたの神、
主が相続地としてあなたに与えようとして
おられる地を汚してはならない。

旧約においてはまだ一夫一妻制が確立していま
せんでしたから、このように妻を複数持つこと、
そして偏り愛することがあったようです。それは
家族や共同体のトラブルに発展します。それを制
限するために、長子である子の権利を偏愛によっ
て損なわれないように考えられていました。

「かたくなで、逆らう子」の規定があります。
わが子を死罪に定めるのですから、そこには極限
状態があったであろうと想像されます。そのよう
な事情から家庭内暴力や、殺人などの事件に発展
することが現代にもあります。そのような極限状
態をも人間社会では扱わなくてはなりません。

ここでは、両親に決断が求められています。当
然、そのような決断の選択肢があることによって、
更生した子も多いでしょう。また子供と勇気
を持って向き合った親も多かったことでしょう。そ
の意味でこの規定は機能したと想像できます。

しかし、どうにもならないような場合は、息子
を訴えることが最終手段としてありました。その
場合、親の主親ではなく、「長老たち」を通して
でなければなりません。個人の判断だけで命に関
わることを決断するのは得策ではありません。

それでも親のエゴであった場合はどうなのかと
疑問が残ります。が、他の規定では、「ある人に
不正な証言をするために悪意のある証人が立った
ときには、…さばきつかさたちはよく調べたう
えで、…偽りの証言をしていたのであれば、あ
なたがたは、彼がその同胞にしようたくらんで
いたとおりに、彼になし…」とあります。

神の民にも極端的に不幸はありうるものです。
主はそのようなときにも、個人と社会とに最善に
なるように配慮を持っておられる方です。どんな
状況にも、主の御心を仰ぎましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の
約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願
いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなた
の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



22:1 あなたの同族の者の牛または羊が迷っているのを見て、知らぬふりをしてはならない。あなたの同族の者のところへそれを必ず連れ戻さなければならない。

22:2 もし同族の者が近くの者でなく、あなたはその人を知らないなら、それを自分の家に連れて来て、同族の者が捜している間、あなたのところに置いて、それを彼に返しなさい。

22:3 彼のろばについても同じようにしなければならない。彼の着物についても同じようにしなければならない。すべてあなたの同族の者がなくしたものを、あなたが見つけたなら、同じようにしなければならない。知らぬふりをしてはできない。

22:4 あなたの同族の者のろば、または牛が道で倒れているのを見て、知らぬふりをしてはならない。必ず、その者を助けて、それを起こさなければならない。

22:5 女は男の衣装を身に着けてはならない。また男は女の着物を着てはならない。すべてこのようなことをする者を、あなたの神、主は忌みきらわれる。

22:6 たまたまあなたが道で、木の上、または地面に鳥の巣を見つけ、それにひなか卵がはいっていて、母鳥がひなまたは卵を抱いているなら、その母鳥を子といっしょに取ってはならない。

22:7 必ず母鳥を去らせて、子を取らなければならない。それは、あなたがしあわせになり、長く生きるためである。

22:8 新しい家を建てるときは、屋上に手すりをつけなさい。万一、だれかがそこから落ちても、あなたの家は血の罪を負うことがな

いために。

22:9 ぶどう畑に二種類の種を蒔いてはならない。あなたが蒔いた種、ぶどう畑の収穫が、みな汚れたものとならないために。

22:10 牛とろばとを組にして耕してはならない。

22:11 羊毛と亜麻糸とを混ぜて織った着物を着てはならない。

22:12 身にまとう着物の四隅に、ふさを作らなければならない。

何もしなければ責任は問われないというものではありません。正しいことを知っていながら、しないのは罪であるとヤコブ書にもあるように、家畜などが迷っているのを見た場合は、それを助けなければならない。単に責任逃れのように何もしないのではなく、良いことを選択しましょう。

神様から与えられた性を、健全に祝福されたものであるように生きることが求められています。またそれは個人の幸せでもあります。それを混乱させるような習慣や遊びは「忌みきらわれる」のです。ただし新約の現代においてはこれを律法として考えると差別となり得ます。性同一性障害といった事情や歌舞伎などの芸術に関しては、別の議論が必要でしょう。

母鳥とひなとを一緒に取ってしまうのは、心ないやり方です。動物とはいえ、愛護の精神がないと人間社会にも影響してきます。動物愛護は回りまわって、人間の「しあわせ」にも関係するのです。屋上の手すりも重要です。だれに対しても安全を考える必要があります。万全を期しましょう。

種や糸の例にあるように、別種類のを混合させるのは、「汚れている」と言われています。きよくないのです。自然界でも畑が不作になったり、作業がうまくいかなかったり、何よりも、それは民の生き方に影響すると考えられたようです。相矛盾するものを隠し持っているようなやり

方にならないように、生き方を考えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



22:13 もし、人が妻をめとり、彼女のところにはいり、彼女をきらい、

22:14 口実を構え、悪口を言いふらし、「私はこの女をめとって、近づいたが、処女のしるしを見なかった。」と言う場合、

22:15 その女の父と母は、その女の処女のしるしを取り、門のところにいる町の長老たちのもとにそれを持って行きなさい。

22:16 その女の父は長老たちに、「私は娘をこの人に、妻として与えましたが、この人は娘をきらいました。

22:17 ご覧ください。彼は口実を構えて、『あなたの娘に処女のしるしを見なかった。』と言いました。しかし、これが私の娘の処女のしるしです。」と言い、町の長老たちの前にその着物をひろげなさい。

22:18 その町の長老たちは、この男を捕えて、むち打ちにし、

22:19 銀百シケルの罰金を科し、これをその女の父に与えなければならない。彼がイスラエルのひとりの処女の悪口を言いふらしたからである。彼女はその男の妻としてとどまり、その男は一生、その女を離縁することはできない。

22:20 しかし、もしこのことが真実であり、その女の処女のしるしが見つからない場合は、

22:21 その女を父の家の入口のところに連れ出し、その女の町の人々は石で彼女を打たなければならない。彼女は死ななければならない。その女は父の家で淫行をして、イスラエルの中で恥辱になる事をしたからである。あなたがたのうちから悪を除き去りなさい。

22:22 夫のある女と寝ている男が見つかった

場合は、その女と寝ていた男もその女も、ふたりとも死ななければならない。あなたはイスラエルのうちから悪を除き去りなさい。

22:23 ある人と婚約中の処女の女がおり、他の男が町で彼女を見かけて、これといっしょに寝た場合は、

22:24 あなたがたは、そのふたりをその町の門のところに連れ出し、石で彼らを打たなければならない。彼らは死ななければならない。これはその女が町の中におりながら叫ばなかったからであり、その男は隣人の妻をはずかしめたからである。あなたがたのうちから悪を除き去りなさい。

22:25 もし男が、野で、婚約中の女を見かけ、その女をつかまえて、これといっしょに寝た場合は、女と寝たその男だけが死ななければならない。

22:26 その女には何もしてはならない。その女には死刑に当たる罪はない。この場合は、ある人が隣人に襲いかかりいのちを奪ったのと同じである。

22:27 この男が野で彼女を見かけ、婚約中のその女が叫んだが、救う者がいなかったからである。

22:28 もしある男が、まだ婚約していない処女の女を見かけ、捕えてこれといっしょに寝て、ふたりが見つけれられた場合、

22:29 女と寝たその男は、この女の父に銀五十シケルを渡さなければならない。彼女は彼の妻となる。彼は彼女をはずかしめたからであるから、彼は一生、この女を離縁することはできない。

22:30 だれも自分の父の妻をめとり、自分の父の恥をさらしてはならない。

約束の地においても社会にとって最も重要なのは、結婚と家庭が守られることです。結婚または婚約している男女に関しては非常に厳格な規定があるのはそのためです。私たちも幸いが長く続くために、また子や孫や共同体のためにも、「悪を除き去りなさい。」という主の命令に従う必要があります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



23:1 こうがんのつぶれた者、陰茎を切り取られた者は、主の集會に加わってはならない。
 23:2 不倫の子は主の集會に加わってはならない。その十代目の子孫さえ、主の集會に加わることはいできない。
 23:3 アモン人とモアブ人は主の集會に加わってはならない。その十代目の子孫さえ、決して、主の集會に、はい入ることはできない。
 23:4 これは、あなたがたがエジプトから出て来た道中で、彼らがパンと水とをもってあなたがたを迎えず、あなたをのろうために、アラム・ナハライムのペトルからベオルの子バラムを雇ったからである。
 23:5 しかし、あなたの神、主はバラムに耳を貸そうとはせず、かえってあなたの神、主は、あなたのために、のろいを祝福に変えられた。あなたの神、主は、あなたを愛しておられるからである。
 23:6 あなたは一生、彼らのために決して平安も、しあわせも求めてはならない。
 23:7 エドム人を忌みきらってはならない。あなたの親類だからである。エジプト人を忌みきらってはならない。あなたはその国で、在留異国人であったからである。
 23:8 彼らに生まれた子どもたちは、三代目には、主の集會にはいることができる。
 23:9 あなたが敵に対して出陣しているときには、すべての汚れたことから身を守らなければならない。
 23:10 もし、あなたのうちに、夜、精を漏らして、身を汚した者があれば、その者は陣營の外に出なければならない。陣營の中にはいって来てはならない。

23:11 夕暮れ近くなったら、水を浴び、日没後、陣營の中に戻ることができる。

23:12 また、陣營の外に一つの場所を設け、そこへ出て行って用をたすようにしなければならぬ。

23:13 武器とともに小さくわを持ち、外でかがむときは、それで穴を掘り、用をたしてから、排泄物をおおわなければならない。

23:14 あなたの神、主が、あなたを救い出し、敵をあなたに渡すために、あなたの陣營の中を歩まれるからである。あなたの陣營はきよい。主が、あなたの中で、醜いものを見て、あなたから離れ去ることのないようにしなければならない。

神の完全さときよさが集會においても表される必要がありました。律法というような規定でそれをするとなると、線引きが必要で、個々の人々にとっては不条理なことも出てきます。「陰茎を切り取られた者」であるエチオピアの宦官は救いに与りましたし、「不倫の子」とはまさにイエス様に投げかけられた言葉です。神様の愛には変わりないことを確信しつつ、神様の完全ときよさを表すのは私たちの信仰の歩みであることを覚えましょう。

「出陣」している陣營の規定が述べられています。大切なことはイスラエルの出陣は、主の戦いであるということです。そこには主がおられなければならないなりません、主にふさわしいところでなければならないなりません。

「精を漏らす」という行為は快樂につながるものですから、心理的にも正しく処理する必要があります。また「排泄物」は衛生に関わりますから、しっかりと処理しなくてはなりません。

私たちもこの世にあっては、自分自身の毎日が「出陣」している「陣營」ですから、「主が、あなたを救い出し、あなたの陣營の中を歩まれる」

ことを忘れないで、主にふさわしい生活を整えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

